

Spring-8 利用者懇談会拡大世話人会報告

◇プログラム

開催日時： 平成7年7月18日（火） 13時00分～17時00分

開催場所： 東大総合図書館3階会議室

- | | |
|---------------------|-------|
| 1. 会長挨拶 | 菊田 惺志 |
| 2. SPring-8の現状 | 上坪 宏道 |
| 3. ビームライン建設の現状 | 大野 英雄 |
| 4. ビームライン建設の進め方について | |
| 1) XU1 | 神谷 信夫 |
| 2) BM1 | 野田 幸男 |
| 3) BM2 | 辻 和彦 |
| 4) XU4 | 圓山 裕 |

5. ビームライン建設についての討論会

◇報告

利用幹事 松井純爾

共同利用ビームライン10本の計画決定に基づき、各SG間の相互理解と意見交換のために本拡大世話人会が開催されたことについて下村幹事より説明があり、以下の議題に沿って進行された。

1. 会長挨拶

菊田第二期会長より就任の挨拶があり、SPring-8の円滑利用をめざして活動を続けることの主旨説明と、今年度の活動方針（SGのさらなる強化、放射光研究所整備への提言、省庁への要望、長直線部利用の早期実現努力等）が述べられた。

2. SPring-8の現状

上坪リーダより、現在建設中のSPring-8施設の進捗および予定等について以下の説明がなされた。

（1）予算関連

平成5年度補正予算で全体計画の進行が加速され、平成7年度に契約発注がほぼ完了する結果、平成9年初頭には蓄積リングの試運転開始することに目途がついたと考える。平

成7年度第2次補正予算の準備のためにメディカルイメージングセンター、情報ネットワーク等の整備構想を固めたい。

(2) 研究施設関連

建屋については、Linac、シンクロトン棟に続いて蓄積リングを本年9月に全棟完成をめざしている。共同利用宿舎(仮称)を平成7年度末までに60戸建設し、平成9年には倍増させたいと考えている。

(3) 共同利用ビームライン建設の戦略

私案として平成9年度までは、フロントエンド、ID等は施設者側、光学系は施設者側と利用者側との協力で推進したい。平成10年以降の共同利用ビームライン建設を毎年4本程度としたいが、予算を融通しつつビームライン性能のブラッシュアップを計って行きたい。定期的評価制度を活用しつつ優れた科学的成果を出せるビームラインの建設を促進したい。なお、利用者の建設参加を容易にするための施策として建設責任者のJASRI併任と、参加者への旅費経費支援の容認要請を関係部局に働き掛けたい。

(4) SPring-8関連施設のCOE化

放射光研究所、ならびに原研、理研の播磨研究部門を含めた施設全体のCOE化についての構想がある。

3. ビームライン建設の現状

表記の件について大野サブリーダーより、10本の共同利用ビームラインにおける複数SGからの提案が併設されるがそれらの名称、施設者側担当者、建設責任者の紹介、建設スケジュール等についての説明がなされた。続いて植木サブリーダーより、限られたビームライン建設予算枠(本年9月頃までには確定したいとのこと)からこれら10本のビームラインへの予算配分について口頭説明がなされたが、実験設備等の選択は全体として可成り厳しい状況にあることが実感された。

4. ビームライン建設の進め方

塩谷幹事の司会により、10本のビームライン計画の中から以下の4計画について検討結果の報告ならびに意見交換がなされた。

(1) XU1(理研・神谷氏)

「生体高分子構造解析」用ビームラインではあるが、先行開発ビームラインとして選択された経緯についてと、蛋白質構造解析のルーチン化、IP関連の充実化を狙っているが予算的に苦しい現状が説明された。

(2) BM1(千葉大・野田氏)

「結晶構造解析」用ビームラインについては4SG提案の併設化を検討した結果、とくに光学系の最適化が困難な状況にあることが説明された。また、回折装置としてはオフセンター型の4軸回折計とし、 2θ 回転には高速用と高分解能用の両者を用意することが提案された。

(3) BM2 (慶大・辻氏)

「高温構造物性」用の白色を中心とするビームラインでは、4 SGの併設案の実現に対しては結局のところ装置の直列配置しか選択の余地が無いこと、予算が限定されることへのアフターケアの大切さが強調された。

(4) XU4 (岡山大・圓山氏)

「生体分析」用のビームラインについては、磁気散乱SG提案が含まれるにも拘わらず医学生物ゾーンに建設されることの問題点が提起され、また名称を「物理化学分析」としたい旨提案された。

5. アンケート結果のまとめ

今回世話人会に先だて各SGより提出されたアンケート結果を纏めて下村幹事より報告された。要旨は以下の通りである。

- 1) 併設案については「満足」から「不満」まで幅広い回答があったが概ね満足のようにある。
- 2) 併設案の検討過程で、施設者側とのコミュニケーションに若干の行き違いがあるようで今後の改善が望まれる。
- 3) 利用者懇談会には、SG間またはSGと施設者側との調整について一層の努力を期待したい。特にSGと施設者側との意見交換がやや欠乏していた感を否定できない。
- 4) 概算要求に際して境界条件が不明確で予算の積み上げが難しい。また予算枠についての責任範囲が分かりにくい。
- 5) 専用ビームライン案については考えたいが考えるゆとりが無い。
- 6) 平成10年以降のビームライン計画については不透明な部分が多いが、利用経験を積む中で専用ビームライン化を考えたい。
- 7) 放射光研究所のあり方については利用者のための研究環境の充実を期待する。

また当日の参加者からは、利用者としての立場と建設者としての立場をどう理解しながら対処して行くのか、そして将来SPring-8を使って科学の夢を実現するためには、大学と関係機関(省庁を含めて)との柔軟かつ受容性の高い相互理解が不可欠なことが強調された。

以上、4ビームラインにおける検討の現状説明、ならびに上記アンケート結果報告に続いて活発かつ真剣な質疑応答がなされた。共同チームからも以下の回答意見があった。

- 1) 併設案には自ずと限度があることは十分に了解しているが、今回の措置はできるだけ多くの研究者が利用に参加できることに主眼がある。今後も予算が許す限り平成10年度以降のビームラインの建設実現に努力したい。
- 2) 現在、提案のないSGを含め、利用者のダイナミックな建設推進、利用運用が可能となる方策を進めたい。

最後に菊田会長から、活発な意見提言が展開され、また共同チームからも一部将来展望の紹介がなされたことなど、情報交換を目的とした今回の拡大世話人会の目的が達成されたことへの感謝と、以後も利用者懇談会としてはその役割を一層果たすべく努力したい旨の意志表明がされて閉会となった。